

第24回エネルギー政策検討会会議議事録（要約）

1 会議の概要

(1) 日 時：平成14年12月2日（月）午前9時10分から9時35分

(2) 場 所：福島県庁特別室

(3) 次 第

ア 開 会

イ 議 事

- エネルギー政策検討会「中間とりまとめ」後の国等の動きについて
- エネルギー政策検討会「中間とりまとめ」に対する意見募集の状況について
- 当面の取組みについて

エ 閉 会

2 開 会

【司 会】

- 第23回検討会において、これまでの検討内容を整理し、県民の皆様にお知らせすることを目的として、「中間とりまとめ」を行った。
- 「中間とりまとめ」については、国を始め積極的に知らせるとともに、10月から11月にかけて、意見を募集してきた。
- 本日は、この「中間とりまとめ」以後の国等の動き、それから意見募集状況の報告、それから当面の取組みについて協議する。

3 議 事

【事務局】

（資料に基づき説明）

【司 会】

- 「中間とりまとめ」後の経緯について報告があった。意見や質問を頂きたい。

【検討会メンバー】

- 今回、冊子を作成し、もう一度広報を行うが、パブリック・コメントは、11月いっぱい、その内容をまとめて整理することになる。
- パンフレット等についての意見等が来れば、ホームページ等でも御意見を受けている場所があるので、そこで受けて行きたい。
- 国等の動きについては、「中間とりまとめ」を受けた動きもあれば、そうでは無い動きもあり、今後もよく見定めて行く必要がある。もう少し、このような形で展開していく必要がある。

【検討会メンバー】

- 8月29日に、衝撃的な不正事件が発覚してから3ヶ月程経過し、ある意味、表面上は沈静化しているというのが率直なところである。
- ただ、この問題は簡単に風化させてしまって良いのか、かなり、重いところがある。
- 不正事件が大きすぎて、どれがどうなっているのか、非常に分かりづらい状態にある。しかし、一方で、それぞれの事案、シュラウドの傷の状況や配管のヒビの状況がどうなっているのか等、少しずつ表に出てきている。
- これらを丹念に見て、これから実際に、国や事業者の体質がどう変わってきたのか見

定めていくという手順が重要だと思う。

- とりわけ、福島第一原子力発電所1号機での格納容器の漏洩率検査の不正問題、これは質が異なる問題である。
- （この問題については）今月中に最終報告が出ることになっている。特に、最終報告で大事なのが、5W1H、何時、誰が何処、どのようにやって、この不正が発覚したのか、それに至る動機、背景、この部分が、今後の体質改善の一番の根っこになると思うので、そういう部分がきちんとなされるのか注視していきたい。

【検討会メンバー】

- 説明状況等、これまでの経過が報告されたが、国民等への説明については、どのような取り組み方をするのか、もう少し、幅広い形のものがあったとしても良いのではないかと。

【司会】

- 今後も、県の考え方を引き続き、アピールして行く。

【検討会メンバー】

- （国等の動きに関して）少し変わって来ているのではないかと。頑なのは政府というよりは役所であり、役所は、そうですねと言える立場には無いので、ある意味では頑なな姿勢をとることは予想されていたが、国がそれに、少し本音を言い始めたのかなという感じがする。
- 自由な立場で話せる方が、ある意味では、今まで触れてはいけないタブーの部分に少し触ってみるかなという雰囲気が出てきているのではないかと。これから良く見極めなくてはならないかと。

【検討会メンバー】

- 「中間とりまとめ」に対する意見募集の中身については、取りまとめをしているところだが、今後の課題として、個々の意見に対して、どのようにフォローアップしていくのか、どう対応していくのか等、県民に対する姿勢として大事である。

【検討会メンバー】

- 「中間とりまとめ」については、（知事より）直接、小泉総理大臣、経済産業大臣等に、また、原子力委員会、原子力安全委員会にも、内容を説明し、申し上げた。
- 従来の考え方を頑なに押し進める動きもあるが、一方で、これを契機に、核燃料サイクルを含む原子力政策の全体像を示していこうという議論もある。一部、そういう動きが見られる。
- 今後は、エネルギー政策についての、国民的議論を喚起するために、引き続き、県民等に対して、「中間とりまとめ」の内容を知らせしながら、当面、国等の動きを見守って行きたい。

【司会】

- 当面、そういう方向で進めていくこととする。
- なお、原子力発電所に係る一連の不正問題、これは厳しくチェックしていくことが必要である。
- 以上で、第24回エネルギー政策検討会を閉会とする。